

## 八戸市協働のまちづくり推進委員会（第7回）の結果概要

日 時:平成 22 年 3 月 17 日(水)

午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

場 所:八戸市庁別館 2 階 会議室 C

### 次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 案 件
  - ・平成 22 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金の書類審査
- 4 その他
  - ・今後のスケジュールについて
- 5 閉 会

### 出席者（敬称略）

- 前山総一郎 委員長
- 北向秀幸 副委員長
- 岩崎光宏 委員
- 浮木 隆 委員
- 椛沢孝子 委員
- 佐藤博幸 委員
- 宮崎菜穂子 委員
- 広報市民連携課職員（課長他 3 名）

## ● 会議の概要について

### ◆ H22 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金の書類審査について

・公開プレゼンテーション審査会に向けて

- ① 各団体への質問事項の確認
- ② 各コースの総評案検討

以上について、意見交換を行った。

## ■ 質問事項一覧

NO	団体名	質問事項等
1	豊崎地域づくり 実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. どのような方法で事業のPRを行うのか。</li> <li>2. 豊崎地域の名所案内は、誰が誰に対して案内するものか。</li> <li>3. 中継地点のトイレや駐車場の手配はどのようにするのか。</li> <li>4. これまでに実行委員会は何回開催されているのか、また、どのようなメンバー構成なのか。</li> </ol>
2	南郷の環境を考える会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 途中からでも参加が可能なのか、4回全部受けなければならないのか。</li> <li>2. パケツ代と参加者会費をどのように考えているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パケツを持っている人も、持ってない人も、同じ会費(1,000円)をとるのか。</li> <li>・ 仮に40名の方が新規だった場合、予算が不足すると思うが、どのように予算を確保するのか。</li> </ul> </li> <li>3. 事業周知をどういう方法で行うのか。</li> </ol>
3	市民活動団体 SMIRING	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的にどのような人を対象者に考えているか。明確に説明していただきたい。</li> <li>2. 講師について、講師を作家として招くのか、養護教諭として招くのか、また、団体と講師とのかかわりについて。</li> <li>3. 宮島先生を講師にお招きした講演会で得られた感触をお聞きたい。</li> </ol>
4	NPO 八戸子育てメイト サロンネット「みらい」	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来展望 次年度以降の市奨励金を活用できなくなった場合の将来構想について</li> <li>2. 参加されていない方の掘り起こし <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まであまり関わらなかった親御さん達をどう掘り起こすのか。</li> <li>・ どう子育てサロンとリンクしていくつもりなのか。</li> </ul> </li> </ol>

## ■ コース総評一覧

### <初動期支援コース>

1. 継続して奨励金に申し込んでいる団体は、前回実施した結果を踏まえて、新たに提案して再びやっていくという良い動きになっている。
2. 初動期であっても予算などは整理してやっていただきたい。
3. 団体の活動の継続性を高めるため、事業終了時に当初の計画とどれ位ずれていたかを検証し、次の活動計画を見直すようにしてほしい。
4. 地域担当職員制度が市民奨励金制度を活用し、地域からの動きに対して支援する形としてうまく作動し始めている。

### <事業拡大支援コース>

- ・ 初動期支援コースの場合は、ボランティア的なサークルの延長で出来たが、事業拡大支援コースでは本格的な事業として期待されている。
- ・ 単なるイベントだけではなく、社会的機能としての役割を期待されるようになってきている。
- ・ 一方で一層の自立支援が期待されている。
- ・ この委員会自体の役割として、八戸市の市民団体などの活動に対して、非常に良い学校(インキュベーター)になっている。
- ・ 委員会としては、行政、社会福祉協議会、実際のNPO経験者、事業者が加わっていることで、いろいろな観点からのアドバイスを提供でき、非常に成熟してきた。
- ・ 奨励金制度を通じて団体を育てたという意味で、この委員会自体も機能を果たしてきている面もある。

## ● 今後の予定について

- ・ 4月19日(月): H21年度事業評価
- ・ 4月24日(土): H22年度奨励金事業公開プレゼンテーション審査会
- ・ 5月22日(土): H21年度事業活動成果発表会

## 第7回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日時:平成22年3月17日(水)18:30~20:30

場所:八戸市庁別館2階 会議室C

### 次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 案件
  - ・ 平成22年度「元気な八戸づくり」市民奨励金の書類審査
4. その他
  - ・ 今後のスケジュールについて
5. 閉会

### 3.案件

#### 平成22年度「元気な八戸づくり」市民奨励金の書類審査

初動期支援コース3件、事業拡大支援コース2件についての書類審査を行った。  
また、各コースごとの総評案を検討した。

#### 初動期支援コース1:豊崎地域づくり実行委員会

##### 事業名:八戸小学生駅伝豊崎大会

##### ■ 事務局

- ・ 豊崎地域づくり実行委員会は、豊崎地域の各種団体が集まり、『とよさき地域づくり計画』を進めていくために組織されたもの。団体設立はつい最近で、初動期支援コースへの応募となった。
- ・ この事業は、実行委員会に加わっている各種団体の協力を得ながら開催し、住民間の連携体制を強めていきたいという内容になっている。
- ・ 事業内容は、小学生を対象とした駅伝大会。市内の小中学校から参加を募って大会を実施する。
- ・ 開会式では、ウインドアンサンブルに演奏していただくことになっているが、雨の場合はウインドアンサンブルコンサートに変更する予定で、購入物品は来年度以降に活用する。

##### ■ 委員

- ・ 毎年ウインドアンサンブルのコンサートが行われて賑わっているとあるが、何の時に呼んでいるのか？(事務局>公民館のイベント)
- ・ それを開会式のときに実施し、合わせて公民館祭りも開催するということなのか？それとも、ウインドアンサンブルのコンサートは駅伝大会にだけ実施するという計画なのか？

##### ■ 事務局

- ・ それぞれ独立した事業であり、公民館祭りを同時開催する計画ではない。
- ・ ウインドアンサンブルには特別に協力を依頼し、謝礼は予定していない。

■ 委員

- ・ 実施要項の問い合わせ先に記載されている江陽小学校の高橋先生は、豊崎地域の人なのか？（>事務局：陸連の関係の先生。）
- ・ その人がコーディネート、競技ルール等を仕切れる人なのか？

■ 委員

- ・ 瑞豊館の田中勝芳館長は、八戸電波高校が高校駅伝で入賞した時の主力選手。競技を仕切れると思う。

■ 委員

- ・ 駐車場は用意できるのだろうか？子ども1人に親1人が送迎すると予想される。結構広く確保する必要がある。（事務局>駐車場は中学校と小学校に協力をいただくと聞いている。）

■ 委員

- ・ 小学生の駅伝の距離としては1人2km前後で適当なものなのか？（委員>適当。中学生で3km。）

■ 委員

- ・ 駐車場は中継点の近くに確保しないと、この時期だと寒いし、待機時間がかかなりある。また、トイレも中継地点のそばにないと、大変だと思う。

■ 副委員長

- ・ 競技の話はあまりする必要がないと感じている。
- ・ 組織が設立されたばかりであるため、組織の初動期への支援としての奨励金であることを団体に認識していただきたい。

■ 委員

- ・ 以前奨励金を交付した市川地域の運動会の縮小版のような感じ。
- ・ 地域づくり会議の中から出てきたものが、奨励金と結びついていくのは、良いことだと思う。
- ・ 今回、応募総数が多くないのは何故なのか。地域づくりのアドバイザー（＝地域担当職員）が入って進めているものが、もう少し応募できるのではないかと思う。
- ・ 駅伝そのものは馴染まないのではないかと思うが、まちづくりのきっかけになっていければ、という期待感を持っている。

■ 委員

- ・ 駅伝じゃないが、マラソン大会はいろんな市町村でやっており、町の紹介という感じで、町をあげて開催しているところが多い。
- ・ 物産の抽選や紹介があり面白かったりするし、そういう点では良いと思う。

■ 委員

- ・ 駅伝コースの下見のときに良いところを紹介するというのは、誰が誰に対してなのか？（委員>多分、実行委員が参加者に対してだと思う。）
- ・ 初めての試みなので、きっかけづくりとしてはとても良いと思う。
- ・ 学校として参加できるチームと、それが出来ないクラブチームが参加することを想定すると、学校単位のチームだと入賞トロフィーを、生徒が見れるような場所に展示できる。しかし、これが学校単位でない場合に、トロフィーはどうするのかと思った。
- ・ 誰にでも参加したことが証明できるような、豊崎地区で開催したことが分かるものをあげる方が良いと思う。

■ 委員長

- ・ メダルやバッジを、豊崎地区の何かに変えたほうが良い。トロフィーだけじゃなく、豊崎地区の思い出になる何かを参加者へあげたほうが良い。

■ 委員

- ・ 多分、継続するためにカップやトロフィーはレプリカに変えるのではないのかと思う。
- ・ 優勝カップは持ち回りとかでも良い。豊崎特有のものでもなくても、例えば 6 人にメダル、参加者全員に何か特徴的なものがあったら良い。(事務局>ゼッケンを特徴的なものにして、お持ち帰りいただけるようにしたらどうか。)

■ 委員

- ・ PR のポスター費用が予算に計上されていないが、どうやって PR するのか？
- ・ 学校へポスターを配布するにしても、地域をあげてやるのであれば、それなりの宣伝が必要だと思うが、どのような方法で PR するのか。

■ 委員

- ・ この事業は、とよさき地域づくり計画には掲載されていない事業。いきなり出てきた感じ。

■ 委員

- ・ イメージアップ事業にするなら、それが計画に掲載の事業に当たるのではないか。

■ 副委員長

- ・ 地域でつくる駅伝大会というのは、形として成長していく可能性はあるのか？(>東北町とかでやっている。)

■ 委員

- ・ 八戸では、新井田で春秋の 2 回、川沿いを活用して中学生大会と一般大会を一緒に開催している。
- ・ 実施方法は難しくしない方が良くと思う。新井田では一周で交代するため楽だが、中継地点に配置するのも大変だし、選手の回収などもあるので、結構難しい。

■ 委員

- ・ 専門の先生や実行委員がいるので大丈夫なのではないかと思う。
- ・ 審判員を 8 人計上している点で陸協から審判が加わると思われる。

■ 委員

- ・ AEDとか扱っている団体(ボランティアサークル「いのちの輪」)などにも声をかけて、来てもらったほうが良い。

■ 委員

- ・ 予算は質素な感じがする。

■ 委員長

- ・ 大会に関するアドバイス、PRについてのアドバイス、予算的に心配する意見、地域計画を眺みながら組織化しているのは市川の縮小版かなという感覚もあったが、方向としては良いと感じる。

<質問項目>

1. どのような方法で事業のPRを行うのか。
2. 豊崎地域の名所案内は、誰が誰に対して案内するものか。
3. 中継地点のトイレや駐車場の手配はどのようにするのか。

## 初動期支援コース2:南郷の環境を考える会

### 事業名:生ゴミリサイクル体験学習会

#### ■ 副委員長

- ・ 目的に「アンケートで理解が深まっていないので、引き続きやっていく」とあるが、アンケートの内容については、当日、説明されるのだろうか。

#### ■ 事務局

- ・ 代表者に伺ったところ、学習会に参加された方々の各々の理解が深まっていけば、参加者同士で相談しあえると想定していたが、そこまでには至らなかったため、同じ内容をもう一度繰り返して実施し、理解を深め、参加者の繋がりを築いていきたいとのことだった。

#### ■ 副委員長

- ・ 参加者の繋がりが、継続的なりサイクル活動までは至った感覚が得られていないので、再度同じ試みを継続的にサポートするということ。

#### ■ 委員

- ・ 団体として3年目で熱い時期だから、事業はやれると思う。精神的にも余裕があると思う。

#### ■ 委員

- ・ 40名の対象者だが、「この回だけ出たい」というのも受けることができるのか？途中からの参加や、全部は参加できないが、興味がある部分にだけ参加したいという場合は可能なかどうか？また、その場合はどうしたら良いか？
- ・ 4回全部はなかなか難しい方もいると思うので、こういうケースをサポートしてもらえるかも含めて聞きたい。

#### ■ 委員

- ・ 生ゴミ処理バケツ20個とあるが、バケツは再利用できるのか？
- ・ バケツの単価は2,200円だが、これはどういうものなのか？

#### ■ 事務局

- ・ 参加者としては、新規の人と去年の参加者も参加することを見込んで、事業収入40名となっているが、バケツは20個という積算にしている。去年参加しバケツが不要の人もあるかもしれないため、支出分は20個と話していた。
- ・ バケツは、大きくて水抜き機能なども付いている特殊なものだと思う。

#### ■ 委員

- ・ 会費1,000円を徴収するのは、バケツを持っている人も、持っていない人も、同じ会費をとるのかという疑問がある。
- ・ 1回使ったものを持ち帰ってそのまま使えるのであれば、実費を徴収しても良いのではないかという気がした。
- ・ 参加費用とバケツ代をどう説明するのか気になる。

#### ■ 委員

- ・ 事業内容に、受け取る方は各1,000円と書いている。持っている人はいらぬということではないだろうか？

#### ■ 委員

- ・ 当初から、「バケツ代は実費」で実施しているなら良かったが、バケツは1,000円でもらえるという話になる。

#### ■ 事務局

- ・ お金を払った分、継続して取り組まなければならないという意識にもなるため、ただあげるのではなく、1,000円は負担してもらおうと伺った。
- ・ 参加者数は、団体が対応できる規模を考慮すると、40名以上は厳しいという心配をされていた。

- ・ 会場となる南郷の図書館は 30 人位が入れる規模。

■ 委員

- ・ 仮に 40 名が新規だった場合どうするのか？バケツが足りなくなるのではないかと？さらに 100,000 円が必要になるのではないかと？

■ 委員

- ・ PR、事業周知はどういう方法とするのだろうか？（事務局＞広報等を使ってという話を聞いている。）

■ 委員

- ・ 自分たちの広報は、チラシ作成及び配布という計画にはなっているようだ。

■ 委員

- ・ 沢山の参加申し込みがあった場合に、どう対応するのか？早いもの順になるのか？（事務局＞参加者登録制ということになっている。）

■ 委員長

- ・ 八戸地区住民で学習会に出席できる方ということは、南郷区に限定していない。（事務局＞会場は、バスの便が良い南郷図書館に設定していると聞いている。）
- ・ 去年はグリーンタウン集会所で実施したが、今年は広い範囲の人に参加してもらえるように場所を設定し、八戸地区の住民に門戸を開いている。

■ 委員

- ・ 宣伝したことにより参加希望者が多くなると難しいかもしれない。
- ・ 広報に掲載して申し込みが多かった場合はどう考えているのか、聞いてみたい。

### <質問項目>

1. 途中からでも参加が可能なのか、4 回全部受けなければならないのか。
2. バケツ代と参加者会費をどのように考えているか。
  - ・ バケツを持っている人も、持っていない人も、同じ会費(1,000 円)をとるのか。
  - ・ 仮に 40 名の方が新規だった場合、予算が不足すると思うが、どのように予算を確保するのか。
3. 事業周知をどう方法で行うのか。

### 初動期支援コース 3: 市民活動団体 SMIRING

#### 事業名: 山元加津子氏講演会

■ 委員

- ・ 申請締切日直前に駆け込んだからという気がしないでもないが、予算書を見ると、1 回の講演会で 20,000 円の会場使用料とか、他の部分も含めて、内訳が割と大雑把になっている。
- ・ 事務局へのお願いになるかもしれないが、締切後でも必要であれば書き直しをしてもらうようにしてほしい。審査するにあたっては、当然、質問項目が多くなり、分からない部分が結構あるため、審査が難しい。不明確な部分は差し戻して書き直しをもらう方が良くと思う。
- ・ 謝礼が高額で、交通費は別途計上している。映画の上映に対しては一切触れられていないので、多分他に協働の団体があるのだろうと思いながら選考評を記入したが、細かい部分が分からない。全体の流れを一度聞いてもらいたい。



## ■ 事務局

- ・ 上映会は有志の方々に企画されている事業で、申請団体が直接開催するわけではなく、後援という形で協力するものであるため、申請事業収支に含まれていない。計上予算は講演会事業の予算になっている。
- ・ 会場使用料に 20,000 円が計上されているが、総合福祉会館を利用することを想定している。総合福祉会館は、午前 9:00 から 12:00 の 3 時間借りる場合 10,480 円、午後 1:00 から 4:30 まで借りても 12,230 円となり、終日借りた場合 20,000 円を超える。申請団体はわいぐ登録団体だが、1,000 円の会費収入を得る事業であるため、減免対象外になる。
- ・ 交通費は、講師の交通手段が固まっていないため 50,000 円、謝礼の 100,000 円はおそらくざっくりとした考えでいると思う。

## ■ 委員

- ・ 講師を金沢から招くために交通費 50,000 円は仕方ない。
- ・ 団体と先生の関係はどうなっているのか？
- ・ 私達のような市民活動団体が開催する場合、謝礼の部分は気持ちを汲んでもらい、もう少し安く交渉する。
- ・ 民間企業が開催する事業ではないので、「八戸に旅行に来たと思って、交通費を出すから良いところ見て行ってください」という気持ちで来てもらい、志半分で交通費と込みで 100,000 円位にならないかと思う。

## ■ 事務局

- ・ 交通費について、市の旅費規定では JR 金沢往復で 44,920 円、日程としては 2 泊 3 日となり、宿泊費を込みにすると 67,000 円位になる。計上されている交通費 50,000 円では不足するため、謝礼に宿泊費も加えて計算されているのではないかと思う。
- ・ 委員がおっしゃる通り、ざっくりした予算だと思うため、受け付け締切後の差し替えについては考えていきたい。

## ■ 委員

- ・ こういう事業に傾斜しているということは、この団体には、精神疾患の患者がいらっしゃるのか？（事務局＞団体のブログで精神疾患に対する活動などを紹介している。）

## ■ 委員

- ・ 会則を読んだが、活動について何も触れていない。一体何をする団体なのか、さっぱり分らない。
- ・ 普通は、活動の目的に、何に対してやるのかを書くが、これは何も無い。宗教関係団体と誤解されても仕方がない部分が出てくるので、審査とは関係ない部分かもしれないが、ちょっと問題かなと思う。

## ■ 副委員長

- ・ 対象が明確でない。
- ・ 奨励金で講演会事業を実施した不登校支援の団体があったが、不登校という明らかな対象者があっての動きだった。
- ・ 今回の申請はそれが非常に分かり難い。活動した場合の対象者が、一体どこに居るのが見えない。
- ・ 2009 年事業費収入では 242,000 円あり、2009 年事業の精神科医の講演会に講師料で 200,000 円支出しており、お金を掛けたなと思う。
- ・ 会費を徴収しない場合は、日当分で一日 20,000～30,000 円位でお願いしたりするが、いきなり 200,000 円で呼ぶという方法では、次に続かないと思う。
- ・ 事業費収入で 200,000 円も集められるのなら、そのやり方も出来るが、まだ講師の方の良さが分かっていない中で、もったいない呼び方をしていると思う。

- ・ 対象が明確じゃないから、申請書を読んでもどう評価したら良いのか困り、この点数に現れているのだろう。

■ 委員長

- ・ 2点のご意見が出ている。
  - ① 予算内容が大雑把になっているため、精緻化したものと差し替えてもらう。
  - ② 講師がどういう方なのか分かりにくい部分があるので、そのあたりの情報を伝えて欲しい。

■ 委員

- ・ 事業計画には講師のプロフィールが書いてある。  
(副委員長>ネットで調べたが、作家をしている。)  
(事務局>本も書いてらっしゃるし、養護学校の先生もされている。)

■ 委員

- ・ 謝礼の100,000円は、どちらの立場に対して支払われるのか気になる。

■ 委員長

- ・ 今回の申請事業には、この人のこの部分が必要という、どういう立場として講演をするのか、作家としてなのか、養護教諭としてなのかを明確にしていただかないと分かりにくい。

■ 副委員長

- ・ 協働の奨励金は、八戸市の税金なので、八戸市のどんな人たちを対象にしているのかが見えてくると、公共性・公益性が高まる。
- ・ こういう話があると、とりあえず来て下さいと、かわかりが無くても声がかかるのだが、そういう場合は本当の対象者とは別の話になる。
- ・ 本当の対象者として、具体的にどういった人たちをイメージされているのかが明確にないと、協働という形のアプローチは難しいと思う。

■ 委員

- ・ 対象が漠然としていて、掴みどころが無い。

■ 委員

- ・ 日本人の何十パーセントは鬱なのだから、鬱病等で悩んでいる方が対象とはっきり言い切っても良いと思う。

■ 副委員長

- ・ 明確さが無いままに計画しているのは、少し問題だと思う。

■ 委員

- ・ 事務局のnagisa caféを経営している人が、野菜ソムリエなどの資格を持つ人なので分からなくもないが、関連性が薄い。

■ 委員長

- ・ 予算書の差し替えと、講師の内容をきちんとお伝えいただきたいということ、どういう人を対象にするのか、鬱だったら鬱とか明確にしてほしい。対象者が見えないので、そのあたりについてアドバイスしてほしい。

■ 副委員長

- ・ 当日の質問として、前の宮島さんの講演「薬を使わない精神科医」で鬱の人の話をしたときに、どういう感触を得たのか。前回の感触を聞くことで、今回の申請に繋がる話になると思うので、プレゼンのときの当日質問として投げかけたい。答えを用意しておいてください、とお伝えいただきたい。

## <質問項目>

1. 具体的にどのような人を対象者に考えているか。明確に説明していただきたい。
  2. 講師について、講師を作家として招くのか、養護教諭として招くのか、また、団体と講師とのかかわりについて。
  3. 宮島先生を講師にお招きした講演会で得られた感触をお聞きたい。
- ※ 予算書の件については、詳しい内容を委員の皆さんにお届けしたい。

## <初動期支援コース総評案>

### ■ 委員長

- ・ 個人的な感想だが、南郷の環境を考える会は、去年の事業を踏まえて良い動きになっている。期待できそう。
- ・ 地域だけを対象としていたものが、今度は八戸全域に広げるチャレンジングな姿勢、一所懸命挑戦しようとしていることも、初動期支援の動きとして出てきたことが嬉しい。

### ■ 事務局

- ・ 本来であれば、プレゼンの後に出来れば良いが、20分という短時間に集計し総評をまとめるのは厳しいため、ある程度、総評案をまとめておきたい。
- ・ 総評は個別の名前を出さないで話すので、例えば、予算の見積もりが甘いという団体があったとしたら、「初動期支援であっても、予算はもっとしっかりと見積もりをとるなどして、正確にするべきではないでしょうか」とかアドバイスできる。(委員長>今のコメントを1つ入れましょう。)

### ■ 副委員長

- ・ 初動期では、相手がどうなっているのか、相手の立場で見ないで自分たちの立場で動くスタンスにならざるを得ないと思う。活動するうちに相手のことが見えてくるようになる。相手が見えてくるようにならないと、今の自分たちの考えが、上手く適合しているのか分からないだろう。
- ・ 2回目以降は終わりまで考えた活動にしてほしいので、事業終了時にきちんと相手が見えて、次につながるような考え方でやってほしいとアドバイスしたい。
- ・ 南郷の環境を考える会は1回やって相手が見えて、次にプラスに動いている。こういった動きがないと初動期に関しては次の活動に繋がっていかない。
- ・ 終わったときに、当初のイメージと事業終了時のイメージがどの程度ずれていたかを検証し、次に繋がる活動計画に修正してほしいというのがアドバイスになると思う。

### ■ 委員

- ・ 現実的に、初動期は無我夢中で、申請書を書くだけでも必死になっており、とにかく事業をこなすのが精一杯で、なかなかそこまで出来ないのではないかと思う。

### ■ 委員

- ・ 豊崎の場合は、この実行委員会に地域担当職員が入っているのか？その人の役割として、いわゆる橋渡し、こういう制度のアドバイス、助言を任務的にできないのか？私はむしろ応援してあげれば良いと思う。

### ■ 事務局

- ・ 地域担当職員に相談がきて、何回か一緒に話し、アドバイスもして、この申請に繋がっている。
- ・ そのため、ある程度まとまった開催要項まで作れたのだと思う。

### ■ 委員

- ・ 地域担当職員を置いた意味も大きい。

## ■ 委員長

- ・ 地域担当職員制度が、市民奨励金制度を活用し、地域からの動きに対して支援する形として、うまく作動し始めているということが言える。うれしい話です。
- ・ 現実には、地域担当職員は広報市民連携課に相談しながら取り組んでいると思うが、段々と地域担当職員も成長しながら形になりつつある。

## <初動期支援コース総評案>

1. 継続して奨励金に申し込んでいる団体は、前回実施した結果を踏まえて、新たに提案して再びやっていくという良い動きになっている。
2. 初動期であっても予算などは整理してやっていただきたい。
3. 団体の活動の継続性を高めるため、事業終了時に当初の計画とどれ位ずれていたかを検証し、次の活動計画を見直すようにしてほしい。
4. 地域担当職員制度が市民奨励金制度を活用し、地域からの動きに対して支援する形としてうまく作動し始めている。

## 事業拡大支援コース1:子育てメイトサロンネット「みらい」

### 事業名:ひとりじゃない「世」つなごう八戸子育て支援事業

## ■ 事務局

- ・ 青い森ファンドは、まだ確定していない。青い森ファンドの締め切りが3月5日だったため、こちらの申請事業の収支も青い森ファンドを合わせて応募されている。
- ・ 複数の助成金に応募しているのは、獲得できない場合も想定して複数に応募されているとも考えられるが、予算確保ができない場合は、規模を縮小するなり、計画を見直すことになると思う。
- ・ 市奨励金が500,000円で、その他2件はそれぞれ300,000円程度という収入予算になっている。

## ■ 委員

- ・ こういう事業の場合には、自立できないということが前提になるのかもしれない。

## ■ 委員

- ・ この事業(イベント)をやろうとすれば、自立はできない。自立しては出来ない金額になってしまう。

## ■ 委員

- ・ 以前の県事業の子育てメイトと今と、どう違うのか? 予算面も含めてよく分からない。

## ■ 委員

- ・ 県子育てメイトのときは、相談援助業務で費用弁償していたが、廃止となった。
- ・ その後、八戸市では、地域ごとに就学前の親子を集めるような子育てサロンの補助事業をスタートさせた。
- ・ 地域で子育てサロンをやっている団体はいっぱいあり、その中のひとつを畑中さんがやっている。

## ■ 委員

- ・ 昔はイベントをやっていなかったということか?

## ■ 委員

- ・ 県の子育てメイトのときはなかった。相談・援助にあたる人を配置するのみだった。

■ 委員

- ・ どこかがサポートしなければ出来ないような内容のものが、形を変えれば自立が出来ていくという捉え方をしていけば良いのか。
- ・ 必要なことは必要だと思う。

■ 委員

- ・ いろんなメニューがある中で、例えば支援者の研修というのであれば、自立できる事業になっていくのかなと思う。
- ・ このくらいの規模になると、参加費を何千円も徴収しなければならないという話になるが、そんなに払ってまで参加者が集まるとは思えない。

■ 副委員長

- ・ この団体の申請は2回目でしたか？(>事務局:初動期2回、今回は3回目)
- ・ 悪いことではないが、拡大コースでは、やっぱりこういうイベント事業系になる。

■ 委員

- ・ 例えば、教材屋にスポンサーになってもらうやり方もあるのかもしれない。保育教材、ベビー服を売っている事業者等と連携しないと難しいと思う。

■ 委員

- ・ 自立支援をしてあげたいが、どうすればこの団体が自立できるのか。

■ 委員

- ・ 他の子育てサロンの団体は、地域の公民館等を使って、1ヶ月に1~2回、就学前の子どもと母親を集めてレクレーションや友達づくりの支援を、会費を徴収して実施し完結している。
- ・ イベントものになると難しい。

■ 委員

- ・ 各地域にあるそれぞれのサロンに参加する親子がいるが、参加していない親子がこのイベントにどれくらい参加しているのか？
- ・ いつもの人たちがただ一堂に会して、合同会みたいに行っているだけなのか？子育てサロンの存在を知らずに参加した人がどれだけいるのか？その後、地域のサロンに参加してくれているのか？
- ・ 仮に、支部が集まって1年に1回の総大会をやる事業だとしたら、そのためのポスター作成は無駄かなと思う。
- ・ 過去2回実施しての比率が分かれば良い。

■ 委員

- ・ 多分、それを聞けば、「一般の人が多い」と言うと思う。
- ・ 各サロンがあり、横のネットワークを作って、毎年7月にイベントをやっていたが、この団体が独自に始めた。片方は毎年総合福祉会館でやっていて、サロンネットはホテルでやることになった。

■ 委員

- ・ 去年のアンケートに「このフェアをどこで知りましたか？」という設問があり、サロンで知ったが32%ある。それ以外は新規という見方をすると、サロンを知っている人だけじゃなく、新しい方もサロンに来てもらっているという考え方もできる。新しい参加者にも入ってもらっているということは良いと思う。
- ・ 去年、キリン財団から600,000円位もらっているが、今年もかという感じ。

■ 委員長

- ・ アンケートは参加者に聞いているので、参加している人はだいたい参加して良かったと言うだろう。
- ・ そこだけを見て、アンケートをとったと言うのは、特に事業拡大支援コースとしてはちょっと弱いかと感じる。

- ・ スペシャリストみたいにする必要はないだろうが、市の子ども家庭課と連携して、その情報を取りながらニーズを探るなど、このくらいの規模になってくると必要になってくると思う。
- ・ そうしないと、完結している団体もあるため、存在意義を問われてくる。
- ・ 拡大にして自立というところが問われていると思う。
- ・ 今まで参加していない方の掘り起こし戦略というのを明示していただきたい。

#### ■ 委員

- ・ 活動内容は良いことなので、点数を悪く点けてはいないが、自立性の得点が低いのをどうしていったら良いのか。

#### ■ 委員長

- ・ 元々、官に頼ってきた事業なので、自立が問われているのだろう。
- ・ やる気があって一所懸命やっていることは認められる。

#### ■ 事務局

- ・ もうひとつの団体は、大きなイベントをやるときに、どういう収支でやっているのか？

#### ■ 委員

- ・ ネットワークに参加しているところが、負担金を出して、総合福祉会館を借りて開催している。
- ・ 例えば、ある地域の子育てサロンは塗り絵のコーナーを担当し、他のサロンは歌のコーナーを担当するなど、コーナーを地区ごとに振り分け責任を持って行っている。
- ・ 自分たちのサロンに来ている人たちにも声をかけるし、お友達にも声をかけて頼んでいる。
- ・ 幼児も連れてくることから、長くならないように午前中で終わる。
- ・ 不特定多数の人をより多く集めようと思えば、宣伝したりするこの申請事業の方が良いと思う。
- ・ 不特定多数の人が集まる方が新たな発掘ができ、地域のサロンの参加者を増やすことが出来る。

#### ■ 委員長

- ・ 片一方は地道にやっていて、片一方は華やかに広域的にやっているという性格の違いを活かせる。それはそれで意味があるのかもしれない。
- ・ 参加者への育児相談とかやっているのか？（>やっている。）
- ・ サロンがあるよと広く呼びかけて、相談機能みたいところに繋ぐことを期待されるという気がしてきた。
- ・ PRとともに参加者に対する状況を確実に掴んでいただくことにより、イベントだけではなく、実際に、孤独になりやすいお母さん方をどう繋いでいくかという現実的なところに繋がると思う。こうすることが、多分、期待する方向なのではないかと思う。

#### ■ 委員

- ・ 本来の子育てメイトの役割が何だったのか。
- ・ イベントをやり、家族ぐるみで来てもらい楽しかったで終わらすのか、それとも誰に相談したら良いのか分からないお母さんたちへの効果として残るのか、その辺りが重要になってくる。

#### ■ 委員

- ・ 一過性にしないようにやってほしい。これは総評にも繋がってくる。

#### ■ 委員

- ・ 回覧板に子育てメイトサロンネットのチラシなどは入っているか？

#### ■ 事務局

- ・ 地域に会員がいて、団体として各町内に回覧をお願いしていれば回覧されているかもしれないが、多分していらっしやらないと思う。

- 委員
  - ・ 孤独なお母さんは、こういう場があることをどこで知ることか？（>スーパーなどにポスターが掲示されている。）
- 副委員長
  - ・ 根城では貼っている。すくすくフェアも貼っていた。
- 委員
  - ・ このイベントに行くことで、あなたのご近所にはサロンがありますよと紹介されて、そこに行けるという仕組みが作られるようなやり方をしているのであれば良い。（>やっていると思う。）
  - ・ 前は、子育てフェアの日に相談も受けることになっていたと思う。
- 委員
  - ・ 質問に入れれば良い。
  - ・ 拡大とは、その事業自体が大きくなるのもそうだが、本来の目的事業を発展させることも必要だと思う。
- 委員長
  - ・ 一過性のイベントだけじゃないということを確認できると、我々も安心できる。
- 委員
  - ・ 拡大コースへの応募は1回だけなのか？
- 事務局
  - ・ 拡大コースは、同じ事業での申請はできない。この事業内容での申請は1回だけになる。
- 委員
  - ・ 来年度は市奨励金分の50万円をどう確保するのだろうか。
- 事務局
  - ・ いろいろな助成金の情報を調べているようで、応募しようと計画している部分はあると思う。質問としてお聞きになった方が良くと思う。（委員長>質問項目にする。）
- 委員
  - ・ 補助金に応募する力を持っていることがすごい。
- 事務局
  - ・ 八戸市のこの制度が非常に貢献していると思う。初動期支援コースに初めて申し込まれた時に市役所に通われて、事業計画書の書き方を勉強していたし、助成金情報があるかを聞きに来ていた。
  - ・ この団体は「元気な八戸づくり」市民奨励金が育てた団体かもしれない。
- 副委員長
  - ・ 予算書を見ると、備品で着ぐるみを購入する予定になっている。拡大コースは1事業につき1回の交付しかないため、購入した方が良く気付いたのかもしれない。
- 委員
  - ・ ある程度の備品があれば、事業をどうにか保てる。
- 副委員長
  - ・ 何が何でも自分でやるしかないという覚悟になっているのかもしれない。
- 委員長
  - ・ 質問として、次年度以降の市奨励金を活用できなくなった場合の将来構想を質問していただく。
  - ・ 参加していない人の掘り起こしなどの戦略、今まであまり関わらなかった親御さん達をどう掘り起こすのか、あるいはどうリンクしていくつもりなのか？

## ■ 委員

- ・ 代表の方は保育士さんとかやっているのか？（>昔やっていた。）
- ・ それこそ、企業の社会貢献ということで、こういう活動につながっていければ良い。

## <質問項目>

### 1. 将来展望

次年度以降の市奨励金を活用できなくなった場合の将来構想について

### 2. 参加されていない方の掘り起こし

今まであまり関らなかった親御さん達をどう掘り起こしするのか。どう子育てサロンとリンクしていくつもりなのか。

## <事業拡大支援コース総評案>

- ・ 初動期支援コースの場合は、ボランティア的なサークルの延長で出来たが、事業拡大支援コースでは本格的な事業として期待されている。
- ・ 単なるイベントだけではなく、社会的機能としての役割を期待されるようになっていく。
- ・ 一方で一層の自立支援が期待されている。
- ・ この委員会自体の役割として、八戸市の市民団体などの活動に対して、非常に良い学校（インキュベーター）になっている。
- ・ 委員会としては、行政、社会福祉協議会、実際のNPO経験者、事業者が加わっていることで、いろいろな観点からのアドバイスを提供でき、非常に成熟してきた。
- ・ 奨励金制度を通じて団体を育てたという意味で、この委員会自体も機能を果たしてきている面もある。

## 4.その他

### 今後のスケジュール

- ・4月19日(月):H21年度事業評価
- ・4月24日(土):H22年度奨励金事業公開プレゼンテーション審査会
- ・5月22日(土):H21年度事業活動成果発表会